

自己実現 2025

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

【いよいよ夏季休業】

昨日で1学期期末考査が終了しました。4月からの3ヶ月でみなさんは「基礎基本の定着」に努め、実力を蓄えてきたはずです。この夏季休業中は、それが本物かどうか確かめる絶好の機会です。暗記事項を完全に脳に定着させるために時間を掛けて反復して記憶し、問題演習に取り組んでください。ただし、この時期いきなり大学の二次試験の過去問などに手をつけるのは効果が薄いです。「基礎基本が定着」したと自分で胸を張って言えるようになってはじめて、過去の入試問題に挑むのです。みなさんはまだまだ発展途上です。知識が不十分なままで難しい問題にチャレンジしても、いたずらに時間を失うばかりで実りが少ないです。誰も解けない難しい入試問題が解けることより、誰もが解ける問題を確実に得点できることが合格へつながります。また苦手科目克服の絶好のチャンスでもあります。この夏休みを「実りある」ものにするためにも、三者面談でじっくり今後の方向性を確認し、「羅針盤」等で各教科からのアドバイスを確認し、夏期補習等に積極的に取り組んで、「第一志望への強い信念とそれに見あうだけの学力」を身につけましょう。

なお、1学期の節目にあたり各クラスで教室の環境整備を十分に行ってください。教室は三者面談や夏季補習に使用されるので、終業式迄に教室内の私物を持ち帰りましょう。

【第2回実力考査教科・科目別講評】6/10,11実施

よく読んで復習せよ

<国 語>

〈現代文分野〉

【一】論説的文章では、問一の重要語(カタカナ語)の意味を問う問題の誤答が目立った。頻出の評論用語を理解しておくこと。記述説明の問題(問五)では、筆者の言葉をそのまま抜き書きしただけのものが目立ち、解釈した自分の言葉で説明する力が弱い。記述解答演習の経験値上げていかねばならない。選択肢問題(問六)は本文全体の論旨に関わるものであったが、読解不足の誤答が目立った。論脈・論旨を把握する演習に努力しなければならない。【二】文学的文章では、入試攻略としての漢字の読みや言葉の意味を問う問題(問一)の誤答が多かった。語彙力不足である。記述問題(問二)は「どういう意図か」を問うるので、「～という意図。」と結ぶべきところを、「～であるから。」「～と思っている。」などの末尾表現の誤りが目立った。注意力があまりにも欠如している。演習を重ねて習得すること。【三】実用的文章では、本文全てを精読している時間的ゆとりはないので、出題形式に慣れる努力を必要とする。

〈古文〉問一～問四は主に知識を問うているが、正答率は高くはなかった。記述問題は多少点数を落とすことが想定されるので、知識問題は極力ミスが減らして確実に得点できるようにしておくべきである。問一(助動詞)・問二(敬語)・問三(古文常識)・問四(古語の意味や呼応の副詞等)は反復して定着させなくてはならない。

〈漢文〉すべての問いにわたって、句法・語法の基礎知識の未熟さが目立った。知識の定着に時間を割くこと。教科書や問題演習で触れる句形や語法はもちろんのこと、『明説漢文』の関連句形や他の語法などにも取り組み習得していかなければならない。漢文は満点狙いの分野であるが、認識していても習得努力を怠っては共通テストの攻略はできない。目覚めよ!!

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

<ご意見・ご質問をお寄せください>

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

〈数 学〉

今回から、大問のみの出題となりました。コンセプトは入試標準レベルで、普段の授業では扱っていないけど頻出パターンを重点的に出題しました。今回出題した問題の中には、夏休み中にチャートで基礎を固め、秋以降に入試演習を行っていく中で出会う問題もあることでしょう。それ程頻出なのです。現時点でも復習すれば身につくレベルを出題しているので解き直し必須です。ネタバレになります。9月の実力考査でもそういった頻出問題をいくつかは出題しようと考えています。実力考査はゴールではなく通過点なので、大事な問題に出会わせたいという思いも込めています。そして実力考査という名だけあって、実力をはかるのではなく、実力を伸ばすために必要な出題をしていく予定です。勉強をしていて苦しいときもあるかもしれませんが、精一杯サポートするので一緒に実力をつけましょう。また、入試の形式通りの出題です。文系は120分で5問、理系は150分で6問なので、1問あたり約25分の所要時間となりますが、入試において文系にはちょっとタイトですが標準的な時間設定です。今後も同じ時間設定でいきますので実力考査を経験することで時間に慣れていってください。

1 講評にあるように三角関数の出題で超頻出。個数に注意。目に映るものが真実とは限らない。2 期待値はトレンドのひとつだと思います。新課程で数学Bの統計が扱われることになり、期待値の分解など使える技法が増えたことが影響しそうです。3 よくある約数の出題形式です。苦手になっている生徒が多い分野なので逃げずに復習しましょう。4 丁寧に計算すれば大丈夫。ただ、4月の実力考査のときも $1/6$ 公式は x^2 の係数に注意と講評に書いたのにまた同じ過ちを繰り返すのは悲しいです…。5 (文系) 対数って独特な計算方法があるので、まずは正しく知識を身につけましょう。理系の人も必ず解いてみる。5 (理系) すごく基本的な問題。各小問青チャートに似たような問題があります。6 (理系) 数学Xの授業で毎日のように出てくる e って何者か分かって使っていますか？恐らく何者か分かっていないのに微分積分をしているのでしょうか。しかし e はちゃんと定義されており、そこから導かれる極限の公式は暗記事項です。理系の問題の5, 6は難易度が低かったと思います。1から解いた人は5, 6を解く時間が足りなかったのかもしれませんが。それ故に1から解くのではなく解けそうな問題から解くということが有効だと思いますし、そのための練習が実力考査だと思います。思い切って1から解くことを一度見直してみませんか。それではこの夏、チャートを駆使して基礎をしっかりと固めてください。

〈英 語〉

個々の分析の前に、実考に向かう皆さんの覚悟に関して、一言述べておきたい。皆さんは、実考がある意味をどれだけ正しく理解できているだろうか。どれくらい価値を見出せているだろうか。実考は成績に入らないから・・・、そもそも問題が難しいから・・・といったような会話をときどき耳にするときがある。ただ、本当に、取り組むべき意味合いが薄いものなのだろうか。そうではないはずである。

実際の入試での英語の得点率を知っているだろうか。多くの場合が5割～6割程度であろう。そもそも入試の問題というのは難しい問題であり、その難しい問題から1点でも多く取るために努力ができる人が合格するようにできているのである。であるならば、難しい問題に向き合う経験が受験生にとって必要なことは言うまでもない。

また、確かに、100分という時間を考えれば、実力長文3題、文法・和訳・英作というのは、かなり多いように思われるかもしれない。しかし、神戸大学の入試問題が、80分で、長めの長文3題+自由英作ということを見ると、あながち多すぎる量ではない。むしろ、

時間を無駄にせず効率よく読むことができるか、英語の根本的な力がついているかどうかを知ることができる、絶好の機会である。自由英作、和訳、和文英訳があれだけふんだんに入った試験は、神戸高校実力考査以外には存在しないのである。

皆さんは、6月の実考にどれだけ、気持ちを込めてきたでしょうか。本当に現役で第一志望に現役合格したければ、その人は、実考で少しでも点数を伸ばすことを目標にして、日々の勉強に取り組むべきである。軽視してはいけない。絶対的二次力がある人は、共テは取れるが、共テ取れても二次で点が取れるということにはならない。目指すべきは、絶対的二次力である。だからこそ、もっと多くの人に実力考査を目標にしてほしいし、得点の伸びにもっとこだわってほしい。外部模試を利用する回を省くと、神戸高校オリジナル実考は、あと、9月、11月の2回である。そこに向けて、77回生みんなと一緒に全力で走ろうではないか。

今回の実力考査で特徴的だったのは、長文第2問、第3問の正答率の低さである。大学入試は、長文読解がそのほとんどの点数を占めることを鑑みると、問題によって3割しか取れない問題があるというのは、危機的な状態である。地に足の着いた英語力が身につけている人は、大体どんな英文であっても、安定して一定の点数が取れるようになってくる。それを皆さんは目指すべきなのだが、まだそこに至っていない人がほとんどであることの表れであろう。文法、内容、設問の難易度的に、皆さんが目標としている大学の入試と比較して大きな違いは必ずある。問題と解答を分析して自分の、読解力の課題をしっかりと把握してほしい。

大問10の自由英作に関して言うと、時間がなかった人は、まったく手が付けられていなかっただろう。しかし、自由英作というのは、答えが無限にあり、自分の書き方次第で、確実に点数が取れる問題である。正しい認識は、得点源であるというものである。あれだけ白紙が多いのは、かなり認識を間違えている人が多いのではないだろうか。100分の時間は当初から決められた時間である。問題の構成もわかっている。であるならば、それぞれの問題にかけられる時間を大体決めておいて、一つの問題を深掘しすぎて、他の簡単な問題で点が取れなくなることを防ぐべきである。次回9月の自由英作への取り組みに期待したい。神戸大学志望の者は必ず解くこと。

英語は、誰にとっても、受験の可否を大きく左右する科目である。安定した英語力が、現役合格に必要な条件であるといっても過言ではない。とはいえ、他教科の勉強も同時に進めなくてはならない。その場その場の感覚で、場当たりに、今後の勉強を進めるのではなく、正しい分析に基づいて、自分にとってのベストバランスの学習計画を立てよう。正しく現状を把握して、ベストを見抜くこと、その実行を維持することができるよう自分を磨いていこう。

学年平均

学年全体 平均 72.8 / 200点					
No.1 平均 (長文)			No.2 平均 (文法・和訳・英作)		
39.9 / 100点			32.9 / 100点		
普通科	全体平均	70.5	総理	全体平均	92.6
	No.1 平均	39.1		No.1 平均	47.0
	No.2 平均	31.4		No.2 平均	45.6

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

<ご意見・ご質問をお寄せください>

『自己実現2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

大問別平均点と正答率

大問	1	2	3	4/5/6/7	8/9	10
項目	長文	長文	長文	文法	和訳英作	自由英作
配点	36	33	31	40	40	20
全体平均	19.2	9.5	11.2	14.9	13.8	4.1
正答率(%)	53.4	28.8	36.1	29.8	45.9	20.6
普通科平均	19.0	9.2	10.9	14.5	13.3	3.6
正答率(%)	52.8	27.8	35.2	28.9	44.5	17.8
総理平均	21.1	12.0	14.0	18.4	17.5	8.8
正答率(%)	58.6	36.3	45.1	36.8	58.2	44.2

〈物 理〉 【理系、総理】

①、②は力学分野の出題である。①では剛体の静止条件が問われており、力のつりあいと何処か1点のまわりの力のモーメントのつりあいを考える。考え方は基本通りであるが、得点率はいずれも40%未満であった。②は台と小球の運動に関する設問で、力学的エネルギーや運動量を用いて考察する。(2)の衝突の際には、2物体間で撃力が働いたため、運動量保存則を適用することができ、反発係数の式と合わせると衝突後の速度が求められる。(3)の衝突の後、小球が曲面上で最高点に到達するまでは、台は右向きに動きながら減速する。この間、台は左の壁Wから離れたままで、水平方向に働く力は台と小球の間の垂直抗力の水平成分のみであるから、運動量の水平成分が保存する。さらに最高点で台から見た小球の速度が0となることを用いると、台と小球の速度が求められる。最高点での小球の速度を静止した人から見て0とした誤答が多く見られ、続く③で最高点の高さまで正解できた者は2名であった。

③は、血流速度の測定器を題材に、波の基本式や屈折の法則、斜め方向のドップラー効果を問うた設問である。ドップラー効果に関するウ以降の得点率が振るわなかった。音源と観測者の運動が一直線上でない場合は、それぞれの速度について音源と観測者を結ぶ直線方向の成分を考えれば良い。

④は、マイクロメートル単位で金属板を動かす装置を題材に、コンデンサーの電気容量や極板間の電場などが問われている。直近に学習した内容で、4つの大問の中で一番得点率が高かった。

今回の実力考査で得点できなかった所は原因を自己分析し、夏休みにかけて各自の課題を考え、計画的に既習分野の演習を進めてほしい。

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

〈ご意見・ご質問をお寄せください〉

『自己実現2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

	平均点	得点率 %			
		①	②	③	④
全体	34.2				
普通科	33.3	28.9%	23.7%	36.9%	42.2%
総合理学科	38.0				

〈物理基礎(総合物理)〉 【文系】

①は物体の運動について、ストロボ写真のデータを解析する設問であり、概ね良くできていた。②はゴムひもに取り付けられた物体の運動に関する出題である。ゴムひもの弾性力の性質を問題文から読み取り、運動方程式や力学的エネルギー保存則を用いて考察する。③はばねを伝わる縦波に関する出題で、横波表示との対応と、固定端反射によって生じた定常波に対する理解が問われている。④は力学と電気の融合問題で2つのグラフからの正確に情報を得ることが必要である。2(3)、3(2)の得点率が低く、ともに16.1%であった。全体の得点率は60.8%であったが、その分布には2つの山が見られた。6割に届かなかった者は、早急に復習することが必要である。

〈化 学〉 【理系、総理】

今回の実力考査は、第1回実力考査より難易度を下げて現時点の学力が測定できる問題セットとなるように出題しました。文章を読んで条件や題意を掴み、さまざまな分野が融合された総合問題を解き、解答を記述する必要があるという意味で二次試験的ですが、設問は基本～標準的なレベル(入試レベルから見れば)がほとんどですから、間違っただ箇所やできなかった箇所は解説を使ってきちんと復習(やり直し)をすることが肝要です。解説を読んでもわからない箇所は質問して解決しましょう。一学期で無機・有機も終了します。基本問題集(セミナー)とともにマーク式問題集(チェック&演習化学)は既習範囲まで一通り解き終わっていますか(自分で計画的に進めて下さい)?暗記がたいへんな分野ですが覚える努力をしていますか?次の8月マーク(6月マークより応用問題が増えると思います)では75点を目標にしてしっかりと学力が身につく勉強を進めてください。また、時間不足になった人や計算ミスが多かった人は、普段から(スピードや計算力を)意識して問題を解くようにしましょう。

〈化学基礎(総合化学)〉 【文系】

受験者 94 人 学年平均 27.1 点 最高点 40 点 1 名 30 点以上 47 名

前回の第1回実考では、化学基礎の学習に1年間のブランクがあったことや、考察力を必要とする問題を多く出題したこともあり厳しい結果であったが、3年生になり化学基礎の学習(復習)を授業で開始して2か月余りの今回の実考では、化学の問題をどのように解いていくかという感覚が思い出されてきたように思う。全体的に概ねよくできていた。人によっては、まだまだ知識の整理ができていない、あるいは解き方を忘れてしまっているという分野もあるようだが、化学基礎は第一学年において、ひととおりは学習を終えている教科である。忘れたことを、また復習して思い出すという作業を共通テストまで地道に

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉 〈ご意見・ご質問をお寄せください〉
『自己実現2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

繰り返して行ってほしい。

第1問 小問集合

身の回りの化学についての問題、および基本的事項を問う問題で構成されている。概ねよくできていた。

第2問 反応式や、計算をとまなう、考察する力を求める問題

第1問の基本的事項を問う問題に対して、第2問では、計算を伴う、考察力を問う問題を中心に出題した。問2aは、Cuの電子配置を問う問題であった。電子配置を問う問題は、第一回実考においてもNhについて出題したが、回答率が低かったため、今回も出題をした。が、今回も回答率は期待していたより低かった。問2b、および問3aでは生成した物質や、物質の組成に関する割合を問う問題であった。割合の計算を苦手とする生徒が多く、回答率は低かった。問4は、不動態となる金属を問う問題であったが、正解できていたのは学年全体で数名しかいなかった。この酸化還元反応の分野は2学期以降授業で復習していく分野であるので、今回の正答率の低さは悲観していない。2学期以降の授業で、確実に理解して行ってほしい。

<生物> 【理系、総理】

知識・技能

(配点47)

得点率41.8%、

思考・判断・表現

(配点53)

得点率19.9%

第1回実力考査よりも論述問題の割合を増やし、二次試験を意識した出題とした。したがって第1回より平均は低くなったが、得点率50%を超えた生徒が全体の1/8を占めた。論述問題で素早くて確に自分の考えをまとめることができるよう努力を重ねてほしい。

I (細胞周期) <A>の題材は昨年度東京大学1より得た。体細胞での組換え・DNA修復等、教科書的な知識で解けない問いもリード文により与えられた情報から判断できるようにしたい。のハーディワインベルグの法則は頻出である。計算できるようにしておこう。

II (mitDNA) ミトコンドリアDNAを用いているところは目新しいが、PCR・電気泳動等の基本的な知識があれば解ける問題である。論述問題はすべて字数制限がないパターンで、自分の知識(DNAやATPの特徴)を問題の条件(ミトコンドリアDNA)に当てはめて論述すればよい。特に問7は定番の問題。リード文をきちんと読み取り、解けるようにしておきたい。

III (動物の行動) 最も長い設問だが最も平易で、最初に手を付けるべきであろう。問4の部分に京都大学の過去問を入れ込んであり、ここの正答率が低くなっている。しかし、1度の電気刺激で複数のニューロンが興奮する類題は傍用問題集にもある。課題の取り組み方についても反省してほしい。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

<ご意見・ご質問をお寄せください>

『自己実現2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

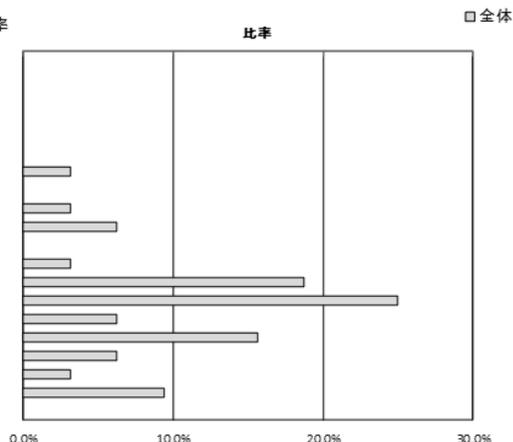
得点度数分布表

全体				
	人数	平均点	最高点	最低点
全体	32	30.2	65	7

第2回実力考査
実施日:2024年06月11日

全体(100%中)の各総合得点比率

得点	人数	比率
95~	0	0.0%
90~	0	0.0%
85~	0	0.0%
80~	0	0.0%
75~	0	0.0%
70~	0	0.0%
65~	1	3.1%
60~	0	0.0%
55~	1	3.1%
50~	2	6.3%
45~	0	0.0%
40~	1	3.1%
35~	6	18.8%
30~	8	25.0%
25~	2	6.3%
20~	5	15.6%
15~	2	6.3%
10~	1	3.1%
5~	3	9.4%
0~	0	0.0%



<生物基礎(総合生物)> 【文系】

第 1 回実力考査の平均は 11.8 であったが、第 2 回実力考査の平均は 23.9 (50 点満点) と倍増した。受験生としての自覚が芽生え、学習に取り組む生徒が増えてきたように感じる。さらに正確な知識を積み上げる努力を期待したい。

<世界史探究>

平均点：42.8 点 最高点：66 点 最低点：23 点

考査は、2 年生の既習範囲を中心に、3 年生の範囲も交えながら広く出題した。共通テストを念頭に置いた選択式問題や地図問題・年代並び替え問題や 2 次試験を意識した論述問題で問題を構成した。総じて、既習範囲の定着率が不足しており、特に年代に関連する問題や論述問題の正答率が芳しくなかった。

世界史では地図と年代は必須事項で、細かな年代は必要ないが、何世紀のいつ頃、どんなことがあって、これがこの後、どのような影響を地域や世界に与えていくかという歴史の流れを理解することに主眼を置いて学んでほしい。

この夏休みにはもう一度、教科書や問題集を用いて復習する必要がある。その際には地図や年表なども利用して、丁寧に歴史の流れを理解しつつ、教科書を熟読して、基本事項を定着するように心がけてほしい。

<日本史探究>

1 出題内容

大問は【1】旧石器～古墳時代の文化、【2】弥生時代までの日中関係【3】古墳時代の外交関係【4】推古～天武・持統朝の政治と文化【5】古代国家の律令制【6】奈良時代の政争史【7】桓武天皇の政治【8】平安中期以降(摂関期)の政治と文化

2 分析

今回は考古～摂関期までを万遍なく出題した。論述問題 2 題は推古天皇の時代の政治と藤原北家が権力を確立するまでをそれぞれ記述させるものであった。京大や阪大の記述問題は 200 字程度で簡潔に記述させるパターンなので、志望者はよくこの形式に慣れてほしい(重要単語を全て入れて簡潔にまとめなければいけないので 300 字程度書くつもりで最初は記述し、あとから不要な語句を削って 200 字にまとめるというパターンになる)。平均点は 34.3 点で、10 点台の人はさすがに勉強が間に合っていないので早急に古代史の基礎的な部分から確認するべきである。【1】【2】【3】についてはやや難易度高い遺跡も出たが、記述問題に出題した遺跡等は覚えてほしい。特に古墳時代の時系列問題(16 の問題)は正答率も、15.5%と低かったが、好太王碑、倭の五王の遣使、磐井の乱などがいつの時代だったのかは感覚を養っておいて欲しい(前近代の重要な事項は世紀とその正規の前半なのか中頃なのか後半なのかを把握するべき)。特に外交関係の時系列は近年比重が増しており毎年のように出されるので間違いなく出るものだと思って臨むべきである。【4】は論述の比重が大きかったが、よく書けているものも多かった。ただし、崇峻天皇の暗殺などの推古政権の成立経緯や首脳部が曖昧なのでそのあたりはよく復習しておくべきであろう(大化の改新の政権の首脳陣なども同様)。【5】は史料と史料本文に書かれた内容が歴史的な文脈のなかで位置付けられていないのか思ったよりも正答率が伸びなかった。よく出題される史料なので内容の把握と時代(誰の時に出了れたのか、その前後にどのような法令が出了れたのか)を復習してほしい。【6】も史料の比重が大きかったが、史料に慣れてない人はてぞったのではないかと。同じ史料がでるとは限らないので覚えなくてもよいが、史料を讀

<保護者の方々にも読んでいただきましょう> <ご意見・ご質問をお寄せください>
『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

むことに慣れないと本番で時間を喰ってしまうので、演習・テストで慣れて苦手意識を克服してほしい。またここでも思ったより時系列問題の正答率が高くなかった。奈良時代の政争の時系列は必須なので何年に起きた出来ごとなのかを覚えてほしい(平安の政争史も同様)。また藤原家の家(南家、北家、式家、京家)も覚えきれていない人が多かったのでここも後でフォローしてほしい。【7】も論述が中心だが、これも時系列が曖昧なのでよく復習してほしい。また寺社や武家勢力に関する用語が曖昧な人も多く見受けられるので要復習である。

<地理探究>

問 1～4 はユーラシア大陸、アフリカ、オセアニアの自然に関する問い。このうち、アフリカ南部の雨温図の問題でインド洋の気候の特徴が理解できればわかる問題と大陸西岸の乾燥気候や地中海性気候がわかれば出来る問題が来ていません。2 年次の気候で既習の範囲です。問 6 は難問でした。中国の白地図の中で黄河流域と間違えたと思います。問 9 は河川の月別流量を判断する問題。これは付近の地形や緯度、気候から判断する応用問題です。類似問題を解いていたら慣れてきて解けるようになります。問 24 はアンカレッジを答える問題、ウラジオストクと誤答した人が多く、鉄道敷設の基地から間違えたと思われるが、北緯 60 度に注目してください。ウラジオストクは日本海にあり、札幌と同緯度ですよ。見直せばおかしいと思うはずです。問 31 も気候に関する問題。洪水から集落を守るため、は正しいが“夏季”はおかしい、地中海性気候なので夏季の降雨は少ないはず。

気候に関する問題で正答率が低いようです。D 気候は南半球には存在しない、大陸西岸中緯度は乾燥、そこより高緯度側は地中海性気候、など基本的な事柄はもう一度復習して下さい。

<倫理>

- 1 出題形式：共通テスト形式。初見資料の読解問題を含む。
- 2 出題内容
 - ・大問 I～IV：文理共通問題、青年期の課題、源流思想、経験論と合理論（カント前まで）
 - ・大問 V～VII：理系用、範囲はカントを含む
- 3 平均点：文系は 21.8/50（43.7%）。理系は 51.4/100。
- 4 分析
 - ・文系：公共で鍛えた「資料を読み取る力」はついていると言える。正答率が高い。
 - ・理系：知識系は文系より強い。「資料を読み取る力」は文系より弱い。まだ伸びる。
 - ・青年期の課題の単元は、授業でもあまり抑えていない部分を出題したため、正答率が低かった。この分野は範囲が狭いので、演習を通じて少しずつ抑えていけばよい。
 - ・源流思想（古代の哲学の範囲）で弱いのは、授業で薄くしか取り上げなかったところ。これも仕方ない。これからフォローしていきます。
 - ・仕方なくないのは、授業で念入りに抑えたのに、はずしている問題。ゴータマがバラモン教を否定したこと(12)、プラトンの四元徳(15)、イスラムの聖地(20)。下記の 5 を読んでください。
- 5 学習の心構え
 - ・「×難しい問題を答えて差を広げる」→「○易しい問題を答えて差をつけられない」

<保護者の方々にも読んでいただきましょう> <ご意見・ご質問をお寄せください>
『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

夏は input も output もやってみる。演習は秋に授業でたっぷり取れるので、勉強のペースは慌てなくてよい。慌ててほしい科目は他にある。

- ・ 試行問題を夏に一度解いてみてほしい。「公共」に出てくる倫理分野の問題が難しい。

<政治経済>

1 出題内容

大問は政治理論と各国の政治体制、日本国憲法とその原理、人権と地方自治、三権の役割の四つであり文系は倫政で出題の為、理系よりも問題数は少ない。

2 分析

今回は政治分野をまんべんなく出題した。定期テストの範囲と同じで出題範囲も狭いため理系では平均点が 50.6 点であった。ただし政経の特性上、低すぎる点数も取らないが、高得点も取りにくかったようだ。細かい部分で曖昧にしているところを復習することで本番の高得点を狙って欲しい。

思ったより正答率が低かったものはアメリカの政治体制であり、大統領権限と議会の権限は基本的な内容なので再度確認してほしい。また日本の行政・司法・立法の各機関の権限も正答率が低かった。首相、内閣、議会などがそれぞれどのような権限を持っているのかをさらっておくのがよいだろう。一方裁判の判例などはしっかりと勉強している学生はちゃんと解答できていた。ただしすぐに忘れてしまう分野でもあるので反復を通して知識を定着させてほしい。また具体的な事例を提示しどのような権利や法律に当てはまるのかを判断するような問題はよくできていた。本番も丁寧に解けばそのようなタイプの問題は解けると思うので自信を持ってほしい。

■まとめ

『成績のいい人はテストの見直しをしている……』

テストは結果ばかりをみるのではなく、間違った問題を必ず見直しをすること。間違い直しは最も効率のいい学習法です。見直しをしないのはとても損をしていることに気がつかない人は次のテストでは残念な結果に終わるかもよ…。わからないところは先生に質問してください。

[大学入学共通テストへの準備について]

大学入学共通テストは、現役生は個人ではなく在籍高等学校経由で一括出願することになっています。出願方法や注意事項等の詳しい説明は、**9月3日(火)の14:15~15:00に学年集会**で行う予定です。また、出願書類(大学入学共通テストでは「**受験案内**」と呼んでいます。)は、**77 回生全員分**を学校で取り寄せます。夏季休業中に申請や手続きが始まるものについて確認しておきます。

英語リスニング「イヤホン不適合措置申請」について

英語リスニングで使用するイヤホンが耳の形に合わず装着できないために、試験当日ヘッドホンの貸与を希望する場合は、「イヤホン不適合措置申請書」を下記の方法で入手し、最寄りの大学入試センター試験参加大学の入試担当窓口で確認の署名をしてもらった後、志願票の所定の欄に貼り付けて出願しなければなりません。イヤホンが自分の耳に合うかどうか不安を感じている人は、**進路指導部(松井先生)**のところまで来てください。イヤホンの現物がありますので試しに装着できます。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

<ご意見・ご質問をお寄せください>

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

[申請書の入手方法]

- ① 「大学入試センター」のH. P. からダウンロードする。
- ② 進路指導部の先生(職員室)の所へ行く。

[6月進研大学入学共通テスト模試の答案返却とその結果について]

(5/31・6/1+6/8実施分)

6月に実施した共通テスト模試の結果が判明しました。まだまだ形式に不慣れな点と基礎力の未定着・計算力不足は否めません。夏から秋に向け着実に力がついていくので、これからも焦ることなくじっくりと授業中心の学習を心がけましょう。模試の成績は所詮途中経過に過ぎません。6月の成績分布がそのまま本番まで推移するはずがなく、夏の成果はこれから現れてきます。数字や順位に一喜一憂することなく、間違った問題やできなかった分野に目を向けて復習するというひたむきな努力を積み重ねていくことが大切です。

※今回は2回目の自己採点だったのですが、返ってきた答案の点数と自己採点の得点が違う人があまりにも多く見受けられました。

大学入学共通テスト本番では、自己採点のみで出願校を決めることになります。自己採点と実際の点数が違うことの恐ろしさを考えてみなさい。

HP には得点分布表は掲載していません